

<様式>

学校名	山形市立第八中学校 山形市村木沢字河原田 1620 番地の 2 TEL 023-643-2241 FAX 023-645-8496	校長	長 沼 政 直
		研究主任	深 瀬 智 子
研究主題	「自立した学習者」を育てるために（1年次） ～個別最適な学びと協働的な学びを通して～		
研究主題設定の理由	<p>本校は「創造・貢献・自立 ～地域と繋がり、新しい時代を開く生徒を育てる学校～」を教育目標に掲げ、「自ら学び、考え、表現する生徒 自他のいのちを敬い、地域に貢献する生徒 向上心にあふれ、主体的に行動する生徒」を目指して、教育活動を行っている。</p> <p>その目指すところは、文部科学省中央教育審議会の答申（令和3年1月）、『令和の日本型教育』の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」にある理念に通じている。</p> <p>先の答申では急激に変化する時代の中で、先行き不透明な「予測困難な時代」にたくましく生きていくために、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが必要」としている。</p> <p>本校の生徒は、明るく素直で、与えられた課題に前向きに取り組む姿が見て取れる。また各小学校で少人数・単学級のもと、手厚い支援を受けながら個の特性に応じた、豊かな学びを積み重ねた結果、授業の話し合い活動でしっかりと自分の意見を述べたり、生徒会活動に積極的に立候補したりする姿が多く見られる。与えられた場面・状況において一生懸命取り組める一方で、生徒自らが自身の学習状況や、学習に向かう姿勢を振り返り、課題を見つけたり、改善方法を考えたりする力は、十分に身に付いているとは言いがたい。</p> <p>生徒一人一人を「自立した学習者」に育てることを目指した教育実践を通し、豊かな人生を切り拓くことのできる生徒を育てたいと考え、本主題を設定した。</p>		
研究の目標	個別最適な学び、および協働的な学びを実現するための授業づくりを通して、個々の生徒がもつ資質・能力を引き出し、自立した学習者としての生徒を育てる。		
研究の仮説	生徒の成長やつまずき、興味・関心・意欲をきめ細かく見取った「個に応じた指導」や、一人一人のよさを生かし、他者と協働しながら学び合う「協働学習」の指導の工夫や改善を積み重ねれば、自立した学習者としての生徒を育成できるだろう。		

研究の内容	<p>「自立した学習者」として必要な力を、以下のように考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題を自分事としてとらえる力 ② 解決方法を考える力 ③ 粘り強く実行する力 ④ 振り返る力 ⑤ 自己調整し、次の目標を設定する力 <p>それらの力を身に付けることを目標とした授業づくりを行っていく。 重点として以下の3点を挙げる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 【主体的な学びを目指して】 単元計画と、振り返りの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・「個に応じた主体的な学び」ができるよう各教科で単元計画を立てる。 ・単元の初めに見通しを持たせ、その単元の学習を通して「どんなことができるようになりたいのか」目標を持たせる。 ・授業ごとに、または単元ごとに振り返りを行い、生徒自らが自身の学習状況や、学習に向かう姿勢を振り返る。新たな課題を見つけたり、改善方法を考えたりする力を育てる。 ・生徒の振り返りを基に、個々の興味・関心・意欲等を踏まえて、単元計画を必要に応じて練り直し、きめ細やかな指導・支援につなげる。 2. 【学ぶ意欲を高めるために】 基礎・基本の定着と、協働学習の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高めるために、基礎・基本の定着を図る。 ・他者と関わる楽しさ、共に学ぶおもしろさを実感できるような「対話的で深い学び」を目指した協働学習の工夫を行う。 ・教研式認知能力検査「NINO」を行い、それぞれの認知能力を把握し、つまづいている分野や思考力の特徴を生かして、授業の改善に役立てる。 3. 【幅広い資質・能力の向上を目指して】 <p style="text-align: center;">ICT環境の活用と、「総合的な学習の時間」の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の授業だけでなく、総合的な学習の時間も活用して、個別最適な学びができるようにする。 ・ICTの効果的な活用により、生徒の幅広い資質・能力を引き出す。 												
研究の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領や各種答申の理解を基に、研究を進める。 2. 全職員の共通理解のもと、研究を進める。そのために、研究部だけでなく、職員ミーティングを行う。小規模校だからこその強みを生かし、生徒の実態や研究の目標について語り合う場を定期的に設定する。 3. 必要に応じて、外部講師を招いての研修会を行い、研究に対する学びを深める。 4. 授業研究会を行い、事前研・事後研を通し、研究の深化を図る。 5. 生徒に学習に関するアンケートを行い、研究の成果と課題を客観的に把握し、授業改善に役立てる。 												
研究の計画	<table border="0"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">4月</td> <td>NINO実施（1年生）</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>研究方針の確認</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>校内授業研究会</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>アンケートの実施（生徒・職員）、授業研究会の成果と課題の集約、研究集録の内容確認、成果のまとめ</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>研究集録作成</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>校内研究会 成果と課題の確認、次年度の研究の方向確認</td> </tr> </table>	4月	NINO実施（1年生）	5月	研究方針の確認	10月	校内授業研究会	12月	アンケートの実施（生徒・職員）、授業研究会の成果と課題の集約、研究集録の内容確認、成果のまとめ	1月	研究集録作成	2月	校内研究会 成果と課題の確認、次年度の研究の方向確認
4月	NINO実施（1年生）												
5月	研究方針の確認												
10月	校内授業研究会												
12月	アンケートの実施（生徒・職員）、授業研究会の成果と課題の集約、研究集録の内容確認、成果のまとめ												
1月	研究集録作成												
2月	校内研究会 成果と課題の確認、次年度の研究の方向確認												